（様式1）

令 和 7 年 度　学 力 向 上 指 導 改 善 プ ラ ン

学 校 教 育 目 標	夢に向かって　堂々と歩む子の育成 ～あきらめず挑戦し　自尊感情を高めるけやきっ子～

目 指 す 子 ど も の 姿	～自主的に行動できる子に～ 人とつながり笑顔あふれる心ぽかぽかなけやきっ子
変 容 を 目 指 す 資 質 ・ 能 力	a知識及び技能 b思考力、判断力、表現力等　c学びにむかう力、人間性等　d情報活用能力　e課題解決能力　f学び続ける姿勢　gコミュニケーション能力

三　田　市　立　け　や　き　台　小　学　校
学　校　長　　清　山　孝　利
研　究　主　体　【　研　究　推　進　委　員　会　】

前年度			継続性	4月（※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を朱字で修正）			2～3月		
				学力向上に向けた重点的な目標 （変容を目指す資質・能力）	成果となる目標 （指標となる数値等）	具体的な行動目標 （成果目標達成のための具体的な手立て等）	年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 （前年度の成果と次年度に向けた課題等）	評価					教員評価	（今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
・豊かな心の育成を図る	・いじめ問題行動等に関連する学校評価アンケート結果では、児童・保護者・職員評価とも昨年度と同程度、肯定的評価90%以上で高評価である。 ・いじめ等の指導事案、不登校児童、児童の抱える問題等について、生活指導委員会、不登校対策委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。 ・「あいさつ」に関する学校評価アンケートの肯定的評価は、職員52%（昨年度54%）、保護者84%（昨年度85%）、児童92%（昨年度89%）となり、三者に意識の開きがある。 ・全職員が意識して、クラス学年に関わらずどの児童に対しても声をかけることであいさつへの意識を高められるように積極的に取り組む。 ・ハートフル参観、学級集会を持つ事ができたが、学級集会の参加者が少ないことは、課題である。 ・小学校における人権学習についての系統性を知らせるため、学校だよりとして、授業内容とねらい、学級集会の内容やねらいを配布していく。 ・職員が意識して、児童をほめたり、がんばりを認めたりする等、自尊感情を高める声掛けを続け、児童に「自己有用感」を感じさせることに努めていきたい。 ・「より良い学校、より楽しい学校」にするために、児童が自ら新しいアイデアを出し合いながら主体的に進められるよう、児童会活動、委員会活動、学級会等支援していきたい。	A	→	・豊かな心の育成を図る （b・c・e・g）	・学校評価アンケート（職員・保護者）の「児童の実態」の項目や子どもアンケートの「自分から進んで明るくあいさつをしている」「言葉づかいに気をつけて、友だちと仲良くしている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす。	・「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う。 けやき台中生徒会作成いじめ防止啓発カレンダーを校内に掲示する。 ・情報モラル教育講演会を実施し、人権に配慮した正しいコミュニケーション方法を学ぶ機会を設定する。 ・児童会主催で「あいさつ運動」（児童会）を実施し、めざす児童像の「人とつながる子」をめざす。 ・学校外の教育力（ゲストティーチャー）を活用し、多様な考え方・生き方・表現等にふれさせる場を設定する。 ・道徳教科書の他「こころはばたく」「心きらめく」「心ときめく」等を活用して、道徳教育・人権教育の充実を図る。 ・人権参観（ハートフル参観）を実施する。 ・人権標語（ハートフル標語）を考える機会を設定する。 ・特別活動委員会を中心に、学級会・児童会を充実させる。	3.3	・いじめ問題行動等に関連する学校評価アンケート結果では、児童・保護者・職員評価とも昨年度と同程度、肯定的評価90%以上で高評価である。 ・児童が誰かに相談しようと思えるための意識付けや、相談しやすい環境、時間の確保などを継続して行う。加えて、保護者との連携を密に図り、相談しやすい関係を築く中で、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく体制づくりを推進する。 ・「あいさつ」についての肯定的評価は、職員62%、保護者82%、児童89%となり、三者に意識の開きがあることが課題である。 ・今後も、あいさつに対して考える機会を設け、児童と共にあいさつの大切さ、目標を共通確認する。また、児童会活動や学年において、児童が主体的に取り組むあいさつについての活動を構築する。 ・ハートフル参観での学級集会を、人権について保護者と共に考える機会ととらえ、今後も継続し大切に実施していくとともに、人権教育のねらいや内容について情報発信に努める。	B
・本に親しむ子の育成を図る	・学校評価アンケートより経年3年間を比較すると、児童アンケート「本を読むことが好き」肯定的評価は、87%→84%→85%となった。保護者アンケート「子どもはよく読書をしている」肯定的評価は、63%→62%→61%となった。一方「あてはまらない」と答えた児童の割合は、7%から3%と4ポイント減少した点は評価できる。 ・図書ボランティアの協力のもと、学校司書がいない日も毎日貸し出しが行えるようになった。図書室前の掲示の工夫や読み聞かせも行われた。昨年度と比べると、貸出冊数は約3300冊増え、貸出者数は約1200人増えている。 ・今年度も継続して、毎学期、読書ウィークを設定し、全校朝読書を行った。来年度は、2学期に2週間朝読書を拡大し取り組んでいく。 ・今後も職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。 ・どの学年も、週に一度は図書室に来室するように声かけをする。（本に出合う機会づくり） ・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。 ・学校司書、図書ボランティア、図書委員会と協力して、読書環境を発展させていく。	B	→	・本に親しむ子の育成を図る （a・b・c・d・f）	・学校評価アンケートの「読書」についての項目で9割以上の肯定評価をめざす。 ・全国学力・学習調査結果の「資料をもとに、与えられた条件を満たしながら書き表し方を工夫して記述する」を全国平均・市平均を上回る。	・書かれている情報を正確に読み取る力をつけるために、授業を意識する。また、本を手に取る機会を意識的に増やす。 ・毎月23日を「家族読書の日」とし、学校だよりや図書館だよりで家族読書の啓発を行う。 ・学校司書と連携し、学校図書館と学年文庫の運営を工夫する。 ・学校司書と図書ボランティア（かたつむり/てんとうむし）による読み聞かせを継続する。 ・各学期に一度、読書週間を設定し、朝読書を行う。 ・ブックフレンド（図書）委員会の活動を支援する。 ・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。	3.4	・「読書活動」に関する学校評価の項目において、職員の肯定的評価は92%、保護者の肯定的評価は98%、児童の肯定的評価は80%と前年度よりも向上している。特に保護者の肯定的評価は36ポイント上がった。 ・図書ボランティアによる本の貸し出し、読み聞かせ等により、来室する児童や図書の貸し出し数が増えている。また、学期ごとに読書ウィークを設定して朝読書を行い、2学期は期間を長くするなど、これまでの継続・発展させてきた取組が効果を発揮している。 ・今後も職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。 ・学校と家庭とが連携し、毎月23日の「家族読書の日」の取組や読書ウィークの取組を通して家庭でも本を読む時間を確保していく。	A
・基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高める	・学校評価児童アンケートの「学校の勉強はわかる」の肯定的評価は95%でたいへん高評価である。また、「あてはまらない」と答えた児童は、0%である。 ・職員アンケートにおいても、この項目における肯定的評価が100%である。計画的で目標を明らかにした授業、指導と評価を一体化した授業が行えている。 ・朝学で行う算数プリントで計算の基礎的な技能を身に付けさせることができている。 ・学年で、授業研究と共に評価ポイント、評価方法などを話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価できた。 ・読む・書く・話す等、国語科で培った言語力を他教科でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。	A	→	・「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなぎ、高め合う授業をめざして～」のテーマに沿った研究の推進 （a・b・c・d・e・f・g）	・学校評アンケート（児童）の「学校の勉強がわかる」「学校の勉強は楽しい」の項目で9割以上の肯定評価をめざす。 ・学校評価アンケート（職員）の学校運営「研究」の項目で研究の成果を問い、9割以上の肯定評価をめざす。	・朝の学習タイムを継続する（算数）。 ・各学年児童の実態を考慮した、学力向上に向けての取り組みを工夫する。 ・放課後学習日や夏期休業期間等に学力保障（個別指導）を行う。 ・「がんばりタイム」を継続して実施する。 ・全国学力・学習状況調査結果を踏まえて、授業改善を行う。 ・研究テーマ「学びに向かう力を育てる」に沿った授業づくりを行い、思考力の育成をめざす。 ・授業研究を行い、全職員で授業力向上に努める。 ・1月に算数科研究発表会を実施する。 ・兵庫型学習システム（5・6年）と担任が連携し、児童理解と指導を行う。	3.5	・学校評価の「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」（児童）の項目では、肯定的評価が92%で大変良好であった。 ・算数科の研究も15年目をむかえ、「対話」を重視し思考力を深める授業づくりに計画的に取り組み、主体的に学ぶ児童の姿につながっている。 ・全国学力・学習状況調査結果において、正答率が全国平均と比べて高く、大変良好であった。今後も、具体物や図を活用し児童が数の大きさや関係を実感としてとらえられる活動を取り入れるとともに、授業中のペアトーク、リボイシングで対話を深めていく活動を取り入れ、児童が自分の考えを言葉で表現したり、筋道を立てて説明したりする力を育てる。	A
・すこやかな体づくりをめざす	・学校評価アンケート「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」の肯定的評価は、94%であり、大変良好であった。 ・体育委員会で、大縄大会や、なわとびチャレンジを企画し、休み時間には、多くの児童が外で大縄やなわとびの練習に目標を持ち取り組むことができた。 ・体育科の授業では、課題に向かうために作戦カードやワークシートを活用し、タブレットを効果的に用いて授業を行うことができた。 ・学年に応じたなわとびや鉄棒カードを作成し、授業中だけでなく、休み時間や放課後にも目標を持って運動に取り組めるようにする。	A	→	・すこやかな体づくりをめざす （c・e・f）	・子どもアンケートの「休み時間や体育の時間に、目標をもって運動したり、体を動かそうとしたりしている」の項目で9割以上の肯定的評価をめざす。	・体育科の体育カードの充実を図り、目標に向かって取り組めるようにする。 ・いろいろな運動遊びができるよう環境整備を行う。 ・スポーツ（体育）委員会の活動を支援する。 ・栄養教諭と連携し、食育を計画的に行う。	3.5	・学校評価の「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」（職員）の肯定的評価は、89%で良好であった。同項目の児童アンケートの肯定的評価は92%で大変良好であった。 ・体育授業では、作戦カードやワークシートを工夫して身につけたい技能や思考を意識化させ、タブレットを効果的に用いて授業を行うことができた。 ・大縄大会や縄跳び記録会をきっかけに、多くの児童が積極的に運動する姿があった。家庭においても目標を持って運動に取り組めるように働きかける。	A
・生活習慣の確立をめざす	・そうじに関する学校評価アンケート結果は、職員77%、児童98%の肯定的評価と、教師と児童との意識の差が見られた。掃除の仕方「けやきモデル」を共通理解し、どの学年でも統一した掃除の仕方を継続したい。 ・掃除の方法の指導だけでなく、その意味を児童と考えていくとともに、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とも考えていきたい。 ・美化委員会が主体となって、靴箱の使い方や掃除を積極的に行えるような取り組みを行った。 ・あったか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、今後も継続して指導していく。	A	→	・ICT機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善を行う （d・e・f）	・学校評価アンケートの「ICTを効果的に用い、個に応じた最適な学びを実現させていく」の項目で、9割以上の肯定的評価を目指す。	・ICTを効果的に用い、児童一人ひとりに有効な指導を続けられるよう学年で取り組む。 ・ふりかえりを、自己調整力に結び付けて、粘り強く学習に取り組む力の育成を目指す。 ・本校の算数科の研究とつなげ、対話的な授業創造を行う。	4	・学校評価の「ICTを効果的に用い、個に応じた最適な学びを実現させていく」（職員）の項目では、肯定的評価が100%で大変良好であった。同項目の児童アンケートの肯定的評価も97%と大変良好である。 ・算数科をはじめ、各教科・領域において、デジタル教科書やオクリンクプラスを活用し、児童が考えを共有し対話を通じて学ぶ授業を実践することができた。 ・児童が学んだことをスライドにまとめ発表する機会が多くあり、プレゼンテーション能力の向上につながった。	A
・ICT機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫改善を行う	・学校評価の児童アンケート「タブレットを用い学習することが楽しい」に関する肯定的評価は97%であった。職員アンケート「学習指導において、ICT機器を効果的に活用する実践を行っている」では、肯定的評価が86%であった。 ・授業において、大型モニタに映して自分の考えを説明したり、プレゼンテーションソフトやミライシードを用い、調べたことをまとめて発表したり、児童同士で考えを交流するなど、iPadを効果的に活用できた。 ・学習指導におけるICT聞きの効果的な活用方法を、今後も学年で出し合い共有していくこと、また、活用のアイデアを学校で共有していけるようにしていく。 ・iPadを効果的に用い、個別最適な学びの場を設定していく。 ・今後も、iPadの使い方や、情報モラルについて、学年の発達段階に応じて指導していく。	A	→	・保・幼・小・中・高の連携を図る （c・f）	・学校評価アンケート（職員）の「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす。	・ウッディ・カルチャータウン青少年連絡協議会を定期開催し、児童・生徒理解を深める。 ・学校園所連携連絡会での内容を職員で共有する。 ・保幼小・小中間で、児童の様子について引き継ぎを行う。 ・年間を通して継続的な保・幼・小・中交流を計画的に行う。 ・5年生と入学予定園児との交流を継続する。 ・けやき台中学校生徒の「トライやる」の受け入れを継続する。	3.4	・学校評価の「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」（職員）の項目では、肯定的評価が95%で大変良好であった。 ・中学校区の連携連絡会を学期に1度開催し、特色ある取組や生徒指導等について情報交換を深めることができた。また、幼稚園児の小学校参観体験や中学校生徒の出前授業など、児童と園児・生徒がかかわる機会を持つ ・連携連絡会の内容をふまえ、保幼園から小学校、小学校から中学校への学びの連続を意識した指導をさらに行っていきたい。	A
・「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなぎ、高め合う授業をめざして～」のテーマに沿った研究の推進	・学校評価児童アンケート「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」は肯定的評価が昨年度と同じ95%（3ポイント上昇）であり良好である。 ・自分の意見や考え方を発表し、「対話」を重視した思考力を深める授業展開について、研究の方向性を職員で共有し、学年で取り組んでいる。その積み重ねが主体的に取り組む児童の姿につながっていると考える。今後も継続して取り組んでいく。 ・ノートコンテストなど、新たな取り組みを行う中で考えを深めることができた。 ・全国学力・学習状況調査結果において、正答率が71%と全国平均と比べて7．6ポイント高い。また、問題形式においては、選択式は82.0%、全国平均より6.7ポイント、短答式は72.0%、全国平均より10.0ポイント、記述式は56.5%、全国平均より5.5ポイントそれぞれ上回る結果であった。また無解答率が低く前向きに取り組む姿が見られた。 ・今後、四則計算だけでなく、割合の意味や図形の意味や性質など、算数用語を理解する基礎力をつけていく。図形に関しては名称や性質を暗記するだけでなく、操作活動を通して実感を伴う理解を図る。	A								
・家庭・地域との連携を図る	・学校評価職員アンケート「情報発信」についての項目では、職員、保護者とも肯定的評価が98%以上であった。 ・保護者に校内の様子をより分かりやすく伝えるため、HPを頻繁に更新し、校長室前の大型モニタにその時々の児童の活動の様子をスライドショーで流す等、本校の取り組みを常時発信することができた。 ・「地域の方々と一緒に勉強や活動することが楽しい」の児童アンケートの肯定的評価は91%で良好である。 ・学校支援ボランティアの活動が充実し、今年度は給食ボランティアや図書ボランティアがさらに充実した。 ・ボランティア通信の発行、ボランティア交流会の実施をを継続して行い、各担当と地域コーディネーターとの意見交流を行っていく。	A								
・保・幼・小・中・高の連携を図る	・学校評価職員アンケートの「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目では、肯定的評価が94%で良好であった。 ・保・幼・小・中・高交流を計画的に行い、授業を見合ったり、情報を共有したりする会を定期的に持つ事が出来た。 ・算数科研究会では、中学校区の教員が参加し、外国語科では学びの連続を意識した出前授業やALT制作のビデオでけやき台中学校生活の紹介を行うことができた。 ・保幼園から小学校、小学校から中学校への学びの連続を意識した指導を行うことができた。	A								

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果
（0～4の5段階評価）の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成　　B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分　　D・・・ほとんど達成できず